



第4回自然と親しむ子ども山登り教室無事終了！

「第4回自然と親しむ子ども山登り教室」が無事に終了しました。7月の天狗岳は梅雨時のため、雨が降ったものの、最後の燕岳は、すばらしい天気にも恵まれて、御来光や天を突く槍ヶ岳を見ることができました。また、一面のコマクサのお花畑や、多くの高山植物、そして野鳥などが、子どもたちの心に残ったことと思います。自分の足でいろいろな山に登り、いろいろな経験をしたことは、子どもたちの自信となり、成長に役立つことと思います。子どもたちの感想や親御さんの感想も、ぜひお読み下さい。

御前山(6月13日)報告

参加者 子どもたち3名
スタッフ6名
別動隊 スタッフ3名
会員(障害者1名、健常者2名)



蔓にぶら下がるKT君

今回も天気予報が心配だったが、雨の降り出しは夜になるという予報を信じて、奥多摩へと向かった。

奥多摩駅からのバスは、いつもながら混んでいた。私たちは、鴨沢西まで行くバスに乗車して、奥多摩湖で降りる。ここで、いつもどおり、体操と自己紹介をして出発する。目指す御前山は、ダム対岸に高く聳えている。

イワツバメの巣などを見ながら、ダムの上を通り、対岸から登りはじめる。早速、急登が始まる。いきなりの急登に、汗が噴き出してくる。長いロープを張ったところもあった。途中、何力所か傾斜の緩いところがあってホッとする。子どもたちもみんながんばって登っている。

ようやく、サス沢山に到着する。ここは、奥多摩湖方面の見晴が良く、休憩にいいポイントだ。ここからは、傾斜の緩いところが何力所があるため、今までよりは幾分楽になる。



オオルリ

サス沢山から少し登ったところで、大きな蔓

が伸びているのをAさんが発見。子どもたちはおそろおそろぶら下がって見たが、問題なくぶら下がれた。子どもたちだけでなく、Yさんや視覚障害者のAさんもぶら下がってみる。しっかりと上で絡まっているのか、かなりの力に耐えられそうだった。

さらに新鮮な緑があふれる中を登り、今は使われていない奥多摩湖からの道との分岐を過ぎて、一登りすると、1,128mの標高点があるゆるやかなところに出た。ここで昼食とする。周囲には、フタリスズカやウツギの花が咲いている。

ここからさらに一登りで、惣岳山に到着した。ここまでの登りでは、2～3パーティーくらいしか他の登山者に会わなかったが、惣岳山には10名くらいの団体さんもいて、にぎやかだった。



御前山山頂にて

御前山へは、少し下ってから登り返す。御前山の山頂は、あまり開けていないが、天気さえ良ければ、木々の間から周囲の山を見ることはできそうだった。ただ、残念ながら今日は、厚い雲に被われて、全く見ることはできない。雨に降られないだけ、ありがたいことだ。集合写真撮った後は、来た道を少し引き返す。

天狗岳(7月3日～4日)報告

参加者 子ども3名

スタッフ6名

別働隊 スタッフ4名

惣岳山とのコルから、栃寄森の家方面に下っていく。少し下ったところに水場があった。なかなか冷たくておいしい。この付近から下は、奥多摩都民の森の体験の森となっていて、地図にない道がいくつもある。どの道でも下に下れると思うのだが、地図にある道が最も短いコースだと思うので、道標なども良く確認しながら下る。

周囲からは、ツツドリやホトトギス、ジュウイチ、キビタキ、ヤマガラ、ヒガラなどの声が聞こえてくる。山腹をトラバース気味に下っていると、すぐ近くでオオルリがさえずっている。声の方向を探すと、手前の木の一つ向こうの木の梢で発見した。鳥を探すのは、とにかく難しいのだが、何とか多くの人が見つかることができたのではないだろうか？ 本当は双眼鏡で見ると、美しい瑠璃色を見ることができるのだが、鳥の形を見たという程度だったかも知れない。

さすがに疲れが出てくる頃、登山道から舗装道路に飛び出した。ここからは、舗装道路を下る。栃寄森の家でトイレをお借りし、予定のバスに乗ることを目標に早足で下る。しかし、予定のバスは、バス道路に出たときに行ってしまった。次のバスは約30分後だったので、長く待つこともなく、バスに乗って奥多摩駅に向かった。

コースタイム

奥多摩湖(10:05)...サス沢山(11:25-11:35)...

1,128m(12:15-12:45)...惣岳山(13:15-13:20)...

御前山(13:40-14:00)...境橋(16:50)

会員(障害者3名、健常者4名)

る。神戸から来てくれたYさんとFさんが、子どもたちと一緒に遊んでくれる。本当にありがたい、メンバーだ。

7月3日

梅雨の真っ最中のため、天気が非常に不安定だ。今回も、週間予報では、まあまあだったが、次第に怪しい予報になってきた。しかし、この季節は、行ってみないと分からないことが多いため、予定どおり決行する。

どんよりとした曇り空の下で、渋ノ湯に着き、ストレッチと自己紹介をする。このところ、オオルりに良く出会うが、今回も梢でさえずっている。

まずは、樹林帯の登りとなる。トラバース気味に登った後、次第に急登になる。もうお昼をオーバーしているため、空腹が応える。別動隊は、のんびり歩いているが、先頭のK君は、疲れを知らず、元気に登っていく。4年生の頃に比べると、とても強くなった。

パノラマコースの尾根に出たところで、昼食タイムとする。高校生くらいのパーティーだろうか？20人くらいの人たちが、私たちと入れ違いに出発していった。

ここからは傾斜は緩くなるが、上に行くほど、石ゴロの道になる。唐沢鉱泉への分岐を過ぎ、さらに登ると、オサバグサが咲いている。マイヅルソウはもちろん、コイワカガミやミツバオウレン、ゴゼンタチバナなどの花も咲いている。葉緑素を持たないギンリョウソウも咲いていた。もうそろそろヒュッテに着くというところで、クロユリを発見した。後から来る人たちにも伝えようと思ってしばらく待ったが、来ないので、あきらめて小屋に向かった。

小屋で受付を済ませ、別動隊を待つ。小屋の周囲に鹿除けの網を張るボランティアの人たちが大勢、小屋に入ってきて、歓談を始めた。私たちも、全員揃って、食堂で入山祝いとする。子どもたちは、いつものようにトランプを始め

7月4日

夜半、かなりの雨が降ったようで、音がうるさかった。しかし、朝食時間の頃には、ほぼ止んでいたようだ。小屋の前の温度計は、13.5を指している。暑い都会とは大きな違いだ。



6時には、全員外に出て、記念写真を取り、それぞれ体操やストレッチをして、出発する。中山峠から樹林帯を登っていくが、左側は、天狗岳東壁のため、スッパリ切れ落ちている。危険なところではないが、一応注意は必要だ。

登山道には、昨日同様に、大きな岩がゴロゴロするようになる。歩きにくい道が続くが、ハクサンシャクナゲが咲き、楽しみを与えてくれる。大きな岩場を通過して、風のないところで休憩する。そこからは、一気に山頂まで休まずに登ることにする。



森林限界を超えた稜線には、多くの高山植物

が咲いていた。コケモモ、コイワカガミ、ツガザクラ、ミヤマダイコンソウ、イワウメ、イワヒゲ、ミツバオウレン、ミヤマゼンゴなど、種類も多い。秋にはおいしい実を付けるクロマメノキは、まだ堅い実が付いているだけだった。



ごつごつした岩の道を登っていくと、天狗の奥庭方面からの道が合流してくる。ここから山頂までは一登り。霧で全く視界がないが、東天狗岳の山頂に到着した。さすがに風が強く、寒いので、集合写真を撮って、すぐに下ることにする。

下りでも一度休憩を取り、中山峠で別動隊を待ちながら大休止とする。クイタダキが、すぐ頭の上の木でさえずりながら移動していた。

中山峠からは、急な斜面を下る。特に、出だしのところが急で、鎖が付いていた。鎖を必要とするほどではないが、滑らないように注意して下る。急斜面をジグザグに下ると、すぐに傾斜は緩くなっていく。キバナノコマノツメが咲いていた。

今回は、野鳥たちもたくさん見られた。ルリビタキやウソも飛び交っている。クロジの声も聞こえた。毎度のことではあるが、耳も目もフルに使って自然を楽しむ。稲子岳南壁を左に見て、ダケカンバの林を抜ける。平坦になり、トロッコの軌道が出てくると、しらびそ小屋は近い。まずは、みどり池の畔に飛び出す。小雨が降っていたため、小屋に入ってコーヒーを注文

して、休憩する。さすがに夏なので餌が豊富なのだろう。リスは来なかった。



数人のメンバーで、小屋の方に教えていただいたクリンソウの群生地を往復することにする。少し戻って、本沢温泉方面に10分ほど行ったところにあるが、先日の美し森よりもすばらしい群生地だった。思いもしなかった光景に出会えて、何かとても得をした気分ので、小屋に戻る。

別動隊は先に出発したので、本隊も後を追う。コマドリ沢は、コケがところどころに生えて、とてもきれいだ。とにかく、北八つは、コケが美しい。地面はもとより、枯れ木や石にもびっしりと付いている。

林道を何度か横切り、ゲートから最後の登山道を歩いていくと、稲子湯に飛び出した。稲子湯で汗を流して、さっぱりする。良い時間のバスがないため、タクシーを呼んで、松原湖まで運んでもらう。雨が降ったり止んだりの天気でしたが、全員が山頂に立ち、無事に下山できた充実した山行だったのではないのでしょうか？

コースタイム

- 7/3 渋ノ湯(11:45)...パノラマコース合流点(12:45-13:20)...黒百合ヒュッテ(15:00)
- 7/4 黒百合ヒュッテ(6:10)...中山峠(6:15)...天狗岳(7:55-8:10)...中山峠(9:40-10:00)...しらびそ小屋(11:25-12:20)...稲子湯(13:50)

燕岳(7月30日～8月1日)報告

参加者 子ども5名
スタッフ6名
別働隊 スタッフ2名
会員(障害者3名、健常者2名)

7月31日

昨日、中房温泉に着いて、ゆっくりと温泉を楽しんだグループと、夜行などで来たグループと中房温泉で合流し、自己紹介や準備体操などを行う。兵庫県から駆けつけてくれるスタッフのYさんは、仕事の都合で昨晚予約していたバスに乗れなかったために、今朝、兵庫を発って追いかけてくださることになった。

中房温泉からは、いきなりの急登となる。しかし、40分ほど歩く毎に休憩するベンチがあり助かる。第一ベンチでは、水場に降りて、冷たい湧き水をペットボトルに満たした。

合戦小屋への荷揚げ用ケーブルの下をくぐると、第二ベンチに到着する。とにかく、今日はものすごい大混雑だ。燕山荘での大混雑が思いやられる。

第三ベンチは燕山荘までのほぼ半分の距離にある。ここから富士見ベンチまでは、少し距離が長い。急登が続くが、子どもたちは元気に順調に登ってくる。

今日は曇り空のため、富士見ベンチでは、残念ながら富士山は見えなかった。ここから少し登ると、傾斜がグッと落ちる。緩やかに登っていくと、合戦小屋まで「あと7分」の標識がある。さらに「あと3分」の標識を過ぎて、合戦小屋に到着。



合戦小屋でスイカを食べる

合戦小屋は、休憩するだけの茶店だが、有名なスイカが何と云ってもおいしい。スタッフみんな子どもたちとスイカを半分ずつ食べる。別働隊も、半分にしたり、三分の一にしたりして、分け合って食べていた。

ここからは、次々に高山植物が現れる。ウサギギク、ムカゴトラノオ、モミジカラマツ、ミヤマセンキュウ、ハクサンフウロ、ミヤマキンポウゲなどが咲いていた。

合戦の頭に登ると、燕山荘が間近に見える。展望があれば、槍ヶ岳や大天井岳も見えるのだが、残念ながら今日は曇っていて見えない。かすかに餓鬼岳が見えていた。



合戦尾根で(後のピークに燕山荘がある)

傾斜の落ちた岩場混じりの登山道を登っていく。ツマトリソウや、ミヤマアキノキリンソウ、アオノツガザクラ、チングルマも咲いている。チングルマは、綿毛も見られた。

燕山荘に向けて山腹をトラバースしつつ登っていく。この付近もお花畑だ。シナノキンバ

イ、ミヤマクワガタ、ハクサンチドリが咲き、小屋の下には、ハクサンフウロやハクサンイチゲもたくさん咲いていた。

小屋に入って、受付を済ませた後は、小屋の外で昼食とする。その後、燕岳の往復に向かう。

風化した花崗岩の道を気持ちよく登っていく。槍ヶ岳は残念ながら雲の中だが、燕岳山頂は、よく見えている。大天井岳も見えていた。足下には、コマクサ、チシマギキョウ、クルマユリなどが咲き、展望以外の楽しみをもらえる。



燕岳山頂直下の岩の上で

先に登った子どもたちは、岩の上で待っていた。燕岳山頂で、集合写真を撮る。曇っているため、残念ながら周囲の山があまり見えないが、しかし、気持ちよい山頂だ。ただ、人が多すぎて、早々に山頂から降りなければならなかった。



燕岳山頂にて

山頂から下り、北燕岳方面に行く。西側に広がる一面のコマクサを楽しむ。燕岳に来たら、やはりここに来ないと、得をした気持ちになれ

ない。一面のコマクサに混じって、タカネスミレも咲いていた。



コマクサのお花畑

コマクサを楽しんだ後は、燕山荘に戻る。途中にある眼鏡岩では、Iさんと私と、Mさん、Tさん、Fさんが眼鏡の上に登って、記念写真を撮る。さらに下っていくと、なんと兵庫のYさんと出会った。Yさんは、合戦尾根を2時間で登ってきたそうだ。何という体力なんだろうか。感服してしまう。

燕山荘の周りには、白花のコマクサも咲いていた。テガタチドリやミヤマトリカブトも咲いている。しばらく小屋で歓談していると、槍ヶ岳が姿を現した。早速、表に出て写真撮影。

夕食は、16時30分と早かったが、オーナーのホルンを聞かせていただき、17時頃には部屋でうとうとして、そのまま眠りについてしまった。今晚は、畳一畳に2人が寝ることになる。

8月1日

夜半、外に出てみると、星は見えるが、まだ雲が多かった。明け方には、雲もほとんどなくなっていたが、月がかなり明るく、満天の星空とは言い難かった。星の写真撮影もしてみたが、失敗だった。

朝食は、早く並んで4時30分から食べられた。食後は、すぐに外に出て、御来光を待つ。雲を茜色に染め、雲の中から真っ赤な太陽が姿を現した。山麓は厚い雲の中に沈み、上空好天の雲海型だ。雲は押し寄せる荒波のように、う

ねっている。



御来光

背後に目を向けると、槍ヶ岳や大天井岳が茜色に染まり、野口五郎岳などの裏銀座の山々も、薄いピンクに染まっている。北に目を向けると、遠くに、立山と剣岳が見えていた。燕岳の右手には、鹿島槍ヶ岳とその手前に爺ヶ岳が見える。今日は、最高の天気で、最高の展望が得られた。



天を突く槍ヶ岳

今日、このまま下山するのはもったいないため、空身で大天井岳方面に30分ほど行ってみることにする。ほしいままの展望を楽しみながらの稜線散歩だ。しかも、槍ヶ岳に向かって行くため、とてもワクワクする登山道だ。蛙岩(げえろいわ)の手前のピークで30分たったため、ここから引き返すことにする。槍ヶ岳だけでなく、穂高岳も近づき、奥穂高岳、吊り尾根、前穂高岳も見え、少し手前に北穂高岳が見える。奥穂と北穂の間には、ジャングルも見えていた。

名残惜しい風景に背を向け、燕山荘に戻る。途中で、イワヒバリが、岩の上でさえずってい

た。私たちがかなり近づいても逃げず、しばらくきれいな声を聞かせてくれた。



イワヒバリ

燕山荘に戻り、ザックを背負って下山にかかる。この頃には、すでに立山や剣岳は雲に被われて見えず、裏銀座の山々も、ところどころ雲に包まれるようになってきた。ここより低い有明山も、雲に飲み込まれていった。



合戦尾根を下る

合戦の頭に着くと、槍ヶ岳や大天井岳が、まだよく見えていた。合戦小屋で休憩し、合戦尾根を下っていく。別動隊が少し遅れ気味だが、第三ベンチまでは必ず待って合流して下った。ただ、そこから先は、温泉で順番待ちになると遅くなるので、本隊と別動隊はそれぞれで行動するようにして、本隊は先に下っていく。

第一ベンチを過ぎ、急な階段を下ると中房温泉は近い。中房温泉に着き、立ち寄り湯に入る。中はやはり狭く、洗い場は順番待ちだった。別動隊も到着し、みんな温泉に浸かる。

帰りのバスは、2台出たが、私たちの乗ったバスは、私たちだけで貸切状態だった。

車で来たIさんとSさん、それと兵庫のYさんと別れ、大系線の電車に乗り込む。麓は曇りで、登ってきた燕岳は見えなかったが、山の上では、快晴の空の下で、最高の展望を楽しむことができ、本当に良かった。

子どもたちの脳裏には、天を突く槍ヶ岳がきつと強い印象が残ったことでしょう。

コースタイム

7/31 中房温泉(6:40)...第一ベンチ(7:20-7:35)
...第三ベンチ(8:35-8:45)...合戦小屋
(10:05-10:35)...燕山荘(11:55-13:05)...燕
岳(13:40)...燕山荘(15:05)

8/1 燕山荘(5:40)...蛙岩手前のピーク
(6:10-6:15)...燕山荘(6:40-7:15)...合戦小
屋(8:00-8:10)...中房温泉(10:40)

自然と親しむ子ども山登り教室感想文

第2回伊豆ヶ岳

昨年の伊豆ヶ岳は、雨で行かれませんでした。

でも今年は、晴れて良かったです。登山口には、小川が流れていて少しさわったら冷たかったです。まだ5月なのに、トンボもいました。道は、急で、岩場が多くきつかったです。山頂では、周り全体が木で、景色を見ることができなくて残念でした。下山中は、アリジゴクがいて、指と指の間に入ってきたくすぐったかったです。下山しながら、指笛の練習をして、駅の近くになると、指笛がふけるようになってうれしかったです。今回は、楽に登ることができました。次もがんばりたいです。

K . I君

第3回御前山

- ・ 最初の方から、けっこうきつくてたいへんだった。
- ・ 子供は私以外男だったので、少しざんねんだった。
- ・ 山頂はやっぱり気持ちよかった。

J . Nさん

第4回天狗岳

今回の天狗岳は、自分にとって久しぶりの高山になりました。でも、「山高きをもって尊しとせず」という言葉もある通り、高い山だったとしても、普段とは、変わらない場合もあつたりするのです。

でも、天狗岳では、初めて経験したことがあります。それは天候は悪い場合、どうするかです。ぬれていて滑りやすそうな岩場。きりで見通しの悪い尾根。下山途中には雨もふってきました。

これじゃ展望はないな、などと思って山道を歩いていた時、僕は、あることに気が付きました。展望のために、山登りをしているのか。いや、そうじゃない。これも悪天候の中での登山、という、いい経験になったんだ、と。だから、僕は、終止、展望がなく、泥で雨具がグッチョグチョになった天狗岳登山を、かえってよかった、と思います。

次回の燕岳では、何が起こるか分かりませんが、今年の登山教室の総決算として、この一年、学んできたことを、生かせるようにしたいです。

K . K君

第4回天狗岳

今回は、天狗岳で、1泊2日の山登りでした。1日目は、黒ゆりヒュッテまで約500mほど登りました。岩場が多く、登りづらかったです。夏なので、名前の知らない虫がたくさんいました。でも、あまりつかれませんでした。

2日目は、雨がふって、きりもかかっていたので、周りの景色が見られず残念でした。山頂までは、500～600mほどでしたが、やはり岩が多くて大変でした。

みどり池では、「ウソ」という鳥が間近で見られました。下山後は、温泉に入ることができて、楽しかったです。

K . I 君

第5回燕岳

今回は2泊3日のつばくろに行きました。

1日目は、中ぶさ温泉に泊まりました。数種類のお風呂の中で、足ゆと野天ぶるに入り気持ち良かったです。

2日目は、合戦小屋へ行くと中の休けい所で、わき出た天然水をのみ、冷たくておいしかったです。

合戦小屋に着くと、大きなスイカを食べて少し元気が出ました。つばくろそうに荷物を置き、頂上へ行きました。景色は、よく見えたけど「やりが岳」だけは雲って見えませんでした。下の方は緑がびっしりとしていました。そこまで行くと、まるでピンクのカーペットの様にコマクサが咲いていてとてもきれいでした。

3日目は「ご来光」が見れて良かったです。

今回は久びさにお土産も買えてうれしかったです。来年も参加したいです。

K . I 君

自然と親しむ子ども山登り教室親御さんの感想

昨年は、初めての山登りということで、とにかく登ることで精一杯でした。「今年も山登り教室に参加する？」と聞くと、すぐに返事はありませんでした。決して楽な事ではないので、本人も色々考えた末「やっぱり行く」という返事が返ってきました。

今年も参加させて頂くからには、何か目標を持って登れるといいね、と話をし、いつもホームページの写真を見ると、小さなかわいい花や実、鳥が映っているので「鳥の名前を覚えられたら楽しいよね」という事で、持ち歩ける鳥の本を買い参加しました。本を開いて鳥の名前をチェックしている息子の姿を見てでしょうか、スタッフのMさんから鳥の本や資料を送って頂き、息子も私も大変驚くとともに、ここまでサポートして下さることに、本当に感謝いたします。

そのかいあってか、本人からも「ウソって言う鳥がいた」「ルリビタキとオオルリがいた」とか、燕岳では「ライチョウの鳴き声だけ聞こえた」という話を聞かせてくれました。その他にも天狗岳で一面のお花畑になっている所があったこと、燕岳でコマクサがたくさん咲いていて、きれいだった事等、昨年は聞かれなかった言葉が出てきて、心身共に成長した山登りになったことを新めて感じました。

最後になりますが、毎回Aさんをはじめ、経験豊富なスタッフの皆様がサポートして下さるので、安心してお任せすることができました。本当に感謝しております。ありがとうございました。

E . I さん

山の自然はなぜ美しいのか？

昨年は「なぜ山に登ることができるのか？」という質問を子どもたちにしましたが、今年は「山の自然はなぜ美しいのか？」というちょっと難しい質問をしました。回答をもらった子どもたちは3人だけでしたが、下記のような回答でした。まだ回答していない子どもたち、そして大人のみなさまはどのように思いますか？

私は、子どもたちに、さらに追加で質問をしてみたいと思いました。子どもたちの回答の中には、「手つかずだから」とか「人が手を加えていないから」という回答が多いようでした。なぜ、人が手を加えていないと、美しいと感じるのでしょうか？ 人が手を加えたものは美しくないのでしょうか？ そもそも美しさって、何でしょうか？ 考えても考えても、100点の答えは見つからない。でも、考えれば考えるほど、何かが見えてくる。だから、考えることはおもしろいね！

- ・ 手つかずの花や草木があるから。
- ・ 空気がおいしいから、そう見える（こともある・・・）
- ・ いつも見ないから
- ・ 人がそれをもとめているから
- ・ 人が少ないから
- ・ 空気がきれいだから
- ・ 機械がないから
- ・ 人が手を加えていないから
- ・ 人工の物でないから
- ・ 自分たちの住んでいる世界とは、ちがう世界だから
- ・ 自然を美しいと思える心が私たちの中にあるから（山の自然は文字通り、本来、自然にあるはずなのに、人間たちはその自然をこわして、自分たちの社会をつくった。だから、人間たちは、まだ手をつけていない本来の姿であるはずの「自然」を見ると、美しく感じるのだろう、と思います。）

山行報告

仙ノ倉山(6月5日～6日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)

6月5日

越後湯沢駅からタクシーで登山口まで向かう。今のところ、天気はよいが、不安定な天気が続いているため、にわか雨が降らなければよいのだが。

小学校の脇から舗装された岩魚沢林道を進む。林道の右手は、別荘地となっている。舗装が終わり、雑木林の中を歩く。新鮮な緑がとても美しい。キビタキやコルリの声を聞きながら登っていく。林道の終点でお昼にしたかったが、なかなか着かないので、途中で昼食にする。昼食後、歩きはじめると、林道終点はすぐそこだった。

登山道に入るとすぐに水場があった。足下には、スミレがたくさん咲いていたが、たぶんミヤマスミレかと思う。コシノカンアオイの花も発見。途中で、すぐ近くでさえずっているオオルリを見つけた。逃げることなく、とても良い声を聞かせてもらった。

ムラサキヤシオの鮮やかなピンク色の花や、チゴユリなどの花を楽しみながら登っていると、イワナシの花も咲いていた。ふり返ると、佐武流山や苗場山も見えてきた。残雪を抱いた山は、やはり美しい。小屋の近くまで登ってくると、まだダケカンバなどは新芽も出ていない。これから春を迎えるようだ。

平標山ノ家に着き、受付を済ませてから、時間があるので、大源太山を目指すことにする。しかし、歩きはじめると、次から次ぎに高山の花たちが現れる。アズマシャクナゲ、ショウジョウバカマ、イワカガミ、ヒメイチゲ、ツバメ

オモト、ミヤマキンバイ、ナエバキスミレ、シラネアオイ、バイカオウレン、ムラサキヤシオなど、なかなか歩が進まず、ヘビが現れたところで、引き返そうという話が出始める。せっかくの天気だからもったいないともうことで、もう少し行ったが、大源太山の少し手前で引き返す。



アズマシャクナゲ

明日登る平標山には、少し雲がかかっているが、次第に薄くなってきた。ただ、仙ノ倉山にはまだ雲がかかっている。

平標山ノ家は、新しくしっかりした小屋になっていた。私がこの小屋にはじめて来たのは、約30年前。そのころは、今の経営者の方のおじいさんが経営していたそうだ。

夜は、満天の星空だった。明日の好天が期待できそうだ。

6月6日

5時半少し前から朝食をいただくことができ、6時に出発できた。今日は雲一つない快晴。南の方に富士山がかすかに見えていた。その右手には、南アルプスも見えている。そして、浅間山、草津方面の山と続き、苗場山も見えてきた。

足下には、ショウジョウバカマがたくさん咲いている。山頂へは木の階段登りが続く。平標山の肩のようなところに着き、さらに山頂に向

けて登る。仙ノ倉山の山頂がかなり近づいて見え、順調に標高を稼いでいることが分かる。苗場山と佐武流山の間には北アルプスの真っ白な山が見えてくると、もう山頂は近い。山頂に立つと、一気に新潟県側の展望が開ける。日本海側には高い山はないが、独立峰の米山とその左手には、雲の上にうっすらと佐渡島が見えていた。



その右手には、守門方面の山、そして越後三山の八海山、越後駒ヶ岳、中ノ岳、その手前に巻機山、左手には平ガ岳、燧ヶ岳、至仏山、手前に、茂倉岳、一ノ倉岳、谷川岳と続き、手前に万太郎山も見える。そして、これから向かうたおやかな仙ノ倉山が佇む。富士山も朝よりよく見えるようになった。

ここから一旦下って、仙ノ倉山に向かう。まずは階段下りから始まる。登山道の脇には、ミヤマキンバイやミネズオウも咲いている。ハクサンイチゲも、一つだけ花を咲かせはじめていた。大展望を楽しみながらの稜線散歩。いくつかのアップダウンがあるが、ふり返ると、今登ってきた平標山とその向こうに苗場山がよく見える。とても贅沢な稜線だ。

最後のジグザグの階段を登ると、仙ノ倉山に到着した。谷川連峰の最高峰の山頂からは、もちろん360度の大展望が待っている。谷川連峰主脈の縦走路は、仙ノ倉山の山頂から大きく下って痩せ尾根となるエビス大黒ノ頭に登り、さらに大きく下って、万太郎山に登る。そこから真っ直ぐに谷川岳に続いている。



日光白根山や皇海山も見え、関東平野側には、赤城山、榛名山と続き、富士山もよく見えている。そして、浅間山から苗場山、手前の平標山と続く。大展望を楽しみ、名残惜しい山頂に別れを告げ、来た道を引き返す。



平標山の山頂直下に来ると、背の高い男性がこちらにゆっくり近づいてくる。もしかして、Hさんかと思って手を振ったら、手を振り返してくれた。

Hさんが日帰りでここまで来てくださったのだ。会えたことをよろこび、山頂に戻ると、少し早い昼食とする。

平標山からは、当初の計画を変更して、松手山経由で下ることにする。気持ちの良い尾根をややトラバース気味に下っていく。こちらは、タカネザクラやアズマシャクナゲが多かった。ハクサンイチゲの群落もあり、白い花をたくさん楽しめた。ナエバキスミレなどもたくさん咲いていて、とても楽しいコースだ。

松手山の手前からふり返ると、平標山がよく見える。ただ、そろそろバスの時間が気になり

はじめた。なかなか降りてこない後の3人組に気をもみながら待ち、合流した後は、下ることに専念する。この頃から、日差しが強く、風がなくなり、じりじりと暑さを感じるようになってきた。

しかし、苗場山はグッと近づいてきて、左手には苗場スキー場もよく見える。松手山からは急な下りが続くが、がんばって下っていく。鉄塔を過ぎ、さらに下っていくと、ようやく舗装道路に飛び出した。それほど長い下りではないのだが、さすがにみんな疲れたようだ。30分ほど待って、14時5分のバスに乗り、越後湯沢に向かう。越後湯沢では、温泉に入って汗を流し、へぎそばを食べてから、新幹線で帰ることになった。

美し森(6月20日)

参加者 会員(障害者6名、健常者11名)
会員外(健常者2名)

梅雨の季節は、天気予報が極めて難しい。週間予報では、今日の前後は、毎日、曇り時々雨、降水確率50%だった。頭を悩ませている予報官の顔が目につかびます。

そんな状況でしたが、今日は、比較的良好な予報でした。残念ながら青空は望めませんでした。この時期としてはまずまずの山歩きを楽しめました。

清里からタクシーに乗り、美し森駐車場で下車。早速、ここでソフトクリームを食べる人もいた。今回は、SさんとYさんの奥様が初参加。自己紹介をして登りはじめる。

レンゲツツジやさまざまなツツジがほぼ満開の状態を楽しませてくれる。黄色や白、色の混ざったもの、そして一番多い赤にも、真っ赤

駅構内の温泉に浸かると、日に焼けた二の腕がひりひりする。すばらしい天気にも恵まれた2日間、すばらしい山を存分に楽しみ、疲れを癒す温泉に入れたことは、本当にありがたいことだ。みなさん、お疲れさまでした。

コースタイム

6/5 平標山登山口(11:10)...林道終点(12:30)...
平標山ノ家(14:30-14:50)...(大源太山方面
散策)...平標山ノ家(16:30)
6/6 平標山ノ家(6:00)...平標山(7:10-7:30)...仙
ノ倉山(8:30-8:50)...平標山(9:50-10:30)...
松手山(11:45-11:50)...平標山登山口
(13:30)

なものからピンクに近いものまで、さまざまなツツジがある。レンゲツツジが多いと思うが、交雑種や園芸品種も多いのだろう。



登っていくと、権現岳や赤岳、横岳などの八ヶ岳がよく見えるようになってくる。美し森の石碑の前で記念写真を撮る。さすがにこの周辺は人が多い。

ここから羽衣の池を目指して行くことにする。少し歩くと、クリンソウまで1分の看板があり、立ち寄ることにする。一面をピンクに染めたクリンソウの群生に歓声が上がる。足下には、サンリンソウも咲いていた。

たかね荘への分岐を過ぎると、人が減って急

に静かになる。すると、少し離れた岩陰でカモシカを見つけた人がいた。小2のS君は、カモシカを見るのは初めてだ。幸運に感謝です。



しばらくカラマツ林を登っていくと、羽衣池に到着。ここで昼食タイムとする。羽衣池は、池の中にいるんな植物が生えていて、池というより湿地のような感じだった。昼食を食べている間に、間近でさえずるウグイスを見た人たちもいた。また、カッコウの声がこだまし、梢でピンズイヤアオジもさえずっていた。また、このレンゲツツジは、非常に美しかった。

羽衣池から山道を歩いて行くと、林道に出会う。ここから下ると、川俣川渓谷に着いた。休憩していると、近くの梢でオオルリを発見。今回、重い望遠鏡と三脚を持ってきた甲斐があった。望遠鏡をセットして、多くの人から見ていただくことができた。

ここから先も、オオルリやキビタキの声がそこかしこでこだましていた。ただ、キビタキは、残念ながら発見できなかった。

川から少し上がると、牧場の中を通るようになる。多くの牛たちがのんびりと横たわっている。霧に包まれた牧場もなかなか幻想的だ。歩道は柵に遮られているが、行く手にノビタキ発見。するとホオアカも出てきた。望遠鏡に捉え

明神ヶ岳(7月11日)

参加者 会員(障害者5名、健常者11名)

たものの、残念ながら長く留まってはもらえず、鳥たちはすぐにどこかに行ってしまった。

天気は悪化に向かっていよう、完全に霧に被われてしまった。展望台を過ぎ、今日3回目の沢を超えると、最後の天女山への登りにかかる。天女が好んで住んだという天女山は、車で来ることでもできる場所だ。ただ、30数年前にここに来たときは、ほとんど周囲に樹木がなく、展望の良いところだったが、今は、かなり樹木に被われている。



山頂を後に、甲斐大泉に向けて下っていく。少し下ると、車道に飛び出した。周囲はすっかり霧に被われている。車道を歩いているうちに雨が降りだした。線路を超えると、すぐに甲斐大泉に到着した。予定の電車を見送ると、次は1時間半もあとなので、パノラマの湯はあきらめて、予定の電車に乗り込む。

不安定な梅雨空でしたが、クリンソウやサラサドウダン、レンゲツツジなどの花や、オオルリなどの野鳥を楽しめた1日でした。

コースタイム

美し森駐車場(10:55)...羽衣の池(11:50-12:25)
...川俣川(13:10-13:20)...展望台(14:20-14:30)
...天女山(15:25-15:40)...甲斐大泉駅(16:40)

昨日は、素晴らしい青空に恵まれたが、今日は厚い雲に被われている。何とか、昼過ぎまで雨が降らなければありがたいのだが。

箱根登山鉄道の車窓は、アジサイが満開だ。電車を1本遅れて到着したMさんを待って、強羅駅を出発する。昨年登った明星ヶ岳と、今日登る明神ヶ岳がよく見えている。

強羅駅から、昨年同様、宮城野橋まで車道を下る。その途中の歩道で財布を拾ってしまった。これから登山なので、帰ってから警察に届けることにする。

宮城野橋から左に折れ、道標に沿って登っていく。ふり返ると、早雲地獄がよく見える。歩いていると暑いのが、さすがに都会のような暑さはなく、比較的涼しい。

登山道は、別荘地の脇を通り、竹林に入っていく。人が大勢歩いたせいだと思うが、深くえぐれている。箆抜け鳥のソウシチョウのにぎやかな声に、オオルリなどの日本の野鳥の声もかき消されそうだ。

登っていくと、次第に急登になってくる。岩場では、ロープなども張られているが、掴まる必要もなく、ぐいぐい登っていく。高度計を見ながら、そろそろ稜線の鞍部に着くはずだと思っていると、樹林の切れた展望の良さそうなところに飛び出した。晴れていたら、なかなかの展望だと思うが、今日は残念ながら展望はない。全員揃ったところで、昼食とする。雨に降られずに、昼食を取ることができて良かった。浅漬のキュウリやなす、少し辛いイカ、凍らせたグレープフルーツなどが次々に回ってきて、おいしさに頬が緩む。重いものを持ち上げてきてくださり、ありがとうございます。

昼食後は、山頂に向けて登り始める。木々が密集してトンネルのような暗いところを通ったり、開けて明星ヶ岳方面がよく見えるところを通ったりしながら次第に登っていく。ノイバラやシモツケ、オオバギボウシなどがたくさん咲いている。



展望の良い尾根を歩く（後は明星ヶ岳）

山頂が近づくとつれ、草原状のところは何度か出るが、もう完全に雲の中に入ってしまった。最上寺方面へ下山道の分岐を過ぎて、さらに登ると、霧に包まれて何も見えない山頂に到着する。風も強く寒いので、早く下ろうという要望が出てきた。



明神ヶ岳山頂にて

雨が降っていたら、早く下に降りられる宮城野温泉方面に下ろうと思ったが、最上寺を見たいという意見もあり、まだ雨は降りだしてないため、予定どおり最上寺に下ることにする。

来た道を分岐まで戻り、下山路に入る。沢の音がし始めると、明神水に到着する。喉を潤して、さらに下る。防火帯を下る頃には、ポツポツと雨が降りだしてきた。この付近は、シモツケやオオバギボウシがたくさん咲いて、なかなか良いところだ。オカトラノオも咲いていた。

神明水に着いた頃、雨がかなり降りだしたので、雨具を付ける。ここから、何度か林道を横切る、長い下山道となる。岩混じりの歩きにくい道が続き、Mさんはなかなか大変だったが、お父さんと一緒にがんばって下っている。

そして、ようやく最上寺に到着した。永平寺などと同じ年代にできたというこのお寺は、非常に大きなお寺だ。赤い大きな下駄があったが、雨のため、カメラをしまっているため、写真は撮れなかった。

最上寺でトイレを済ませ、道了尊のバス停に向かう。残念ながら、17時20分に最後のバ

スが行ってしまったため、タクシーを呼んで、大雄山駅に向かう。

雨の中の長い下り、お疲れさまでした。

コースタイム

強羅(9:55) ... 鞍部(11:45-12:25) ... 明神ヶ岳(13:20-13:30) ... 最上寺(17:20)

赤石岳・荒川三山(7月17日～19日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)

7月17日

静岡駅からタクシーで2時間半かけて畑薙第一ダムに着く。ここから榎島までの送迎バスに乗るのだが、すでに大勢並んでいる。予定の9時10分発には、メンバー12人中8人しか乗れない。仕方がないので体力のある人たちに次のバスにしてもらって、8人が予定より少し遅れたバスに乗って榎島に向かう。

バスの中では最前列に座ったため、運転手さんからいろんなことを教えてもらって、とてもラッキーだった。榎島に着き、水を補給したりして、演歌を歌いながら出発する。先日のNHK「ためしてガッテン」で得た知識を早速活用する。このペースなら疲れなないと言う声上がる。科学の力は、すごいものだ。

榎島から赤石小屋まで1/5という標識のある標高1405mの標高点で昼食を取り、後から来る4人を待つ。なかなか来なかったが、昼食が終わった頃、到着した。話を聞くと、ちょっとしたハプニングがあったが、その遅れを取り戻して来たらしい。ハプニングにはちょっと心配を感じたが、その後の対応にはたくましさを感じた4人だった。

林道らしい2/5のところを過ぎ、樺段も通過する。ゆっくり歩いてはいるものの、さすが

に汗が噴き出してくる。展望のほとんどない樹林帯をただひたすら登る。

急登がようやく終わる2027mに到着するとホッとす。しかし、この頃から疲れのた人が遅れ気味となる。若いYさんは、疲れた人の装備を持って登ってくれる。本当に力強く、ありがたい若手だ。

傾斜は落ちたものの、展望もなく、花も咲いていない単調な尾根をゆっくり、しかし確実に登っていく。木の間から聖岳が見えるところを過ぎ、山腹をトラバース気味に進むと、ようやく赤石小屋に到着した。雲が湧いていたが、雲の切れ間から赤石岳や聖岳が見えていた。雲は次第に少なくなり、荒川東岳(悪沢岳)もよく見えてきた。明日の登頂を楽しみに、早々に休むことにする。しかし、なかなか眠れず、ほとんど横になっただけで終わった。夜半に外にでると、サソリ座や天の川など、夏の星座がくっきりと見えていた。

7月18日

今朝は、快晴で明けた。4時30分からの朝食後、赤石小屋の裏手に回って、御来光の写真を撮る。今日は、すばらしい天気の下で、登山を楽しめそうだ。

予定より、少し早めに小屋を出発する。ルリビタキやメボソムシクイの声を聞きながら、樹林帯を登っていく。富士見平に出ると、すばらしい展望が広がっていた。間近に見える赤石岳、その左手に聖岳と上河内岳、後には荒川三山が

すばらしい。荒川三山の上には、放射状に広がる巻雲や、肋骨雲のような巻雲の変形した雲が見られた。当然、富士山も大きく見ることができた。

ここを過ぎると、尾根をトラバースするようになる。左側が切れて、厳しい箇所が次々に出てくる。IさんやNさんが、しっかりと視覚障害者の人をサポートしてくださる。



水場の付近からハクサンイチゲやシナノキンバイなど高山植物が次々に現れる。薄くなった雪渓を通過するが、雪渓から降りるところが下まで距離があり、尻をついて降りる。



トラバースを終わり、山腹に出ると、お花畑が広がる。白と黄色の花が多い。花を楽しみ、休憩の後、雪渓を通過すると、稜線に飛び出す。これまで見ることのできなかつた西から北側の風景が広がる。中央アルプスと、その左奥には御岳山、右奥には乗鞍岳、その左には、槍穂高連峰をはじめとした北アルプスの峰々が、くっきりと見えている。

サポートをする人以外は、ザックを置いて、

赤石岳を往復する。ミヤマシオガマ、オヤマノエンドウ、ミヤマキンバイなどの高山植物が次々に現れる、すばらしいお花畑だ。少し登ると、ライチョウの親子がいた。南アルプスのライチョウは、もう生息数が少なく、絶滅に向かっているらしい。そんなライチョウに会えたのはうれしいのだが・・・。



赤石岳に到着すると、やはりすばらしい展望が待っていた。間近の聖岳はもちろん、北側の荒川三山とその向こうに、塩見岳、農鳥岳、間ノ岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳などの南アルプス3000m級の山々が連なっている。富士山、北アルプスも、中央アルプスも、スッキリと見えている。



展望を楽しんだ後は、記念写真を撮って、来た道を引き返す。デポ地点でザックを背負って歩きはじめるが、西側にはすばらしいお花畑が広がっている。それらを楽しみながら、小赤石岳に登る。ここで展望を楽しみながらの昼食タイムとする。

小赤石岳からは大聖寺平まで、約400mの

下りだ。この頃から、時折雲に巻かれるようになる。荒川三山が、時々雲に包まれるようになる。

大聖寺平から稜線をトラバースし、荒川小屋に到着する。ここで、「スイカー切れ300円」の誘惑に負けて、スイカを買った。さすがにうまかった。

荒川小屋から山腹をトラバースし、岩場を通過すると、水場に着く。ここで水を満タンにする。雪解けの水は冷たくておいしい。そして、ここから今日、最後の登りにかかる。登りは苦しいが、ここもすばらしいお花畑だ。とくにシヨウジョウバカマが多かった。まだ雪解けが済んだばかりなのだろう。土は湿っていた。タカネヤハズハハコ、イワベンケイ、キバナシャクナゲなどの、高山植物もたくさん咲いている。



水場手前の岩場に行く

Mさんが暑さに参ったようで、遅れ気味になってきたが、3人が付き添って、ゆっくりと登ってきてくれる。危ないところはないので、前のグループは、先に登って、中岳を通過し、避難小屋に到着する。若く、力のあるYさんが、後の4人を迎えに行ってくれた。

避難小屋は自炊だ。小屋の外で、ビールを飲みつつ、各自持ってきた夕食を食べ、翌日に備えて、早々に眠りにつく。

7月19日

起床は2時半。小屋の中での炊事は、3時半までできないため、外でお湯を沸かし、アルファ米などにお湯を入れて、途中で朝食を食べら

れるようにする。

今日は、榎島14時のバスに間に合わないと、もう一泊することになるので、がんばって日の出前から出発する。ヘッドランプを付けて3時半に小屋を後にする。

歩きやすい道をしばらく下ると、いよいよ核心部の岩稜が始まる。足を踏み外したら助からない岩場のトラバースがしばらく続く。そこをヘッドランプで通過するので、ずっと緊張感を感じ続ける厳しいところだ。しかし、みんなの力はすばらしい。問題なく無事に通過し、東岳（悪沢岳）の登りにかかる。ここも岩場だが、登りなので、今までよりはずっと楽だった。途中で日の出になったが、ここには日が当たらず薄暗い。それでも、周囲のすばらしいお花畑は楽しめた。お目当てのタカネビランジは、残念ながらまだ咲いていなかったが、今までなかったチョウノスケソウやチシマアマナが咲いていた。



悪沢岳山頂にて

大展望の東岳山頂で、朝日を受けながら、記念写真を撮ったあと、風のあまり当たらないところで、朝食とする。ここからの下りは、大きな岩がゴロゴロする視覚障害者が歩きにくい場所だった。それでも慎重に通過していく。岩場には、シコタンソウやキバナシャクナゲがたくさん咲いていた。

大らかで歩きやすい丸山を通過し、ギザギザの尾根が続く千枚岳に向かう。細い尾根はなかなか厳しかった。途中で、非常に厳しい岩場があり、ロープで確保して、視覚障害者の人たち

に登ってもらおう。



この岩場を過ぎたところには、ミヤマムラサキやミヤマオダマキが咲いていた。ようやく千枚岳に到着したが、この時点で予定より50分遅れ。今日中に帰ることができるか、心配になる。

千枚岳からは、ペースをあげて下ることにする。千枚小屋の手前では、サクラソウの仲間が咲いていた。帰って調べたらオオサクラソウのようだった。千枚小屋でトイレを済ませ、出発したのは予定より55分遅れ。バスの時間まで30分の余裕を見ているため、30分遅れまでなら大丈夫なのだが、帰れない可能性が強くなってきた。

しかし、小屋からはがんばって下る。駒鳥池や見晴台を順調に通過。標準のコースタイムで下っている。このままのペースで下れば、バスの出発時間の1時間くらい前に着きそうだ。しかし、安心せずにぐんぐん下り、小石下で休憩する。その時、Tさんの持っている地図を見せてもらったら、私の持っている古い地図とコースが違っていた。私の地図は旧道で、今は使えないと書いてある。新しい道は、標高差で50mの登りがあり、しかも岩稜らしい。まあ、とにかくがんばるしかないので、林道を横断してコルに下り、新しい道を登っていく。しかし、新しい道は、かなりの岩場で、厳しいルートだ。最後にこんな厳しいところが待っているとは

思いもよらなかったが、がんばって鉄塔の下に出て、下り始める。大きく下った後は、旧道に戻って山腹をトラバースしていく。

時間も厳しくなってきたが、奥西河内にかかる吊り橋に到着した。揺れる吊り橋を慎重に渡る。足の下には、奥西河内の急流が流れていて、なかなか怖い吊り橋だ。ここを無事通過し、大井川の本流に出る。右側の支流にかかる立派な滝を過ぎ、階段を登ると、ようやく林道に出た。地図では、ここから歩いて15分。あと、25分ほどあるので、何とかバスに間に合った。

榎島からのバスは2台出て、私たちは12人で貸切状態だった。牛首峠からの赤石岳や、聖沢橋付近からの聖岳を見せていただいた。運転手さんは、この時間で、こんなによく見えることは夏では非常にめずらしいと言っていた。すばらしい天気にも恵まれた3日間でした。

畑薙第1ダムの駐車場で予約していたタクシーに乗りし、長い車の旅で、静岡駅に到着。すぐに帰る人たちを見送り、残った9人で、下山祝いをする。

また来たいと思うのか、もういいやと思うのか、それぞれの思いを胸に、今回の山旅をふり返り、新幹線で東京へと向かった。

コースタイム

- 7/17 榎島(10:45) ... 1,405m(11:45-12:10) ...
2,027m(14:10-14:20)...赤石小屋(16:50)
- 7/18 赤石小屋(5:25)...富士見平(6:10-6:25)...
水場(7:40-7:50)...赤石岳(9:50-10:20)...小
赤石岳(10:55-11:25) ... 荒川小屋
(13:15-13:35)...中岳避難小屋(15:30)
- 7/19 中岳避難小屋(3:30)...悪沢岳(5:10-5:55)
...丸山(6:40)...千枚岳(7:45-7:50)...千枚小
屋(8:20-8:35)...清水平(10:25-10:45)...小
石下(11:30-11:45)...榎島(13:45)

リーダー養成コース(ナルミズ沢)(8月7日~8日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

8月7日

今回は、人数が少なく、場所も不便なところにあるため、車で行くことになり、FさんとHさんが、車を出してくださいました。

宝川温泉からさらに奥の林業試験地観測所まで車で入る予定だったが、林道が右に大きく曲がる場所にゲートがあったため、そこに車を置いて歩くことにする。観測所の方に聞いたら、このゲートは、林野庁が「ここから先は責任を持ちません」という意味で置いたものらしい。多くの方が、ゲートを外して車で入っていた。これはかなりの誤算だったが仕方ない。重いザックを背負って歩きはじめる。

しかし、この付近は標高が低く、ものすごく暑い。歩くとすぐに汗が噴き出してきた。板幽沢橋のところでは昼食を取り、川に降りて水を満たして、さらに林道に行く。そして、林道終点から登山道に入る。

この登山道は、谷側がずっと切れていて、ところどころ岩場もあり、なかなか厳しい一般道だ。それでも、途中に何カ所か沢が流れていて、喉を潤すことができた。

そしてようやく渡渉点に到着。ここでは、少し上流側にある、大きな石のところを飛び石づたいに渡り、渡渉をしないですんだ。ここから少し登山道を行くと、ウツボギ沢が流れ込む広河原に到着する。今日は、ここにテントを張って夜を明かすことになる。

テントを張ろうとしたら、何と、私は間違っで冬山で使う外張りを持ってきてしまった。それでも、ポールをドーム状に立て、外張りをかけると、何とかテント風のタープになった。今晚は雨の心配もなさそうなので、逆に涼しく眠れそうだ。



Hさんの指揮で、Kさんと私は夕食の準備をするが、Sさん、Fさん、Yさんは、岩魚を釣りに出かけた。30分ほどしたら、彼らは岩魚を1匹釣って帰ってきた。Yさんが釣ったらしい。一同、感激だった。その夜は、焚き火を囲みながら、そうめんとわかめ汁、そして1匹の岩魚を食べて、早々に休んだ。

8月8日

夜半に起きてみると満天の星空だった。3時に起床して、朝食を取り、予定より少し遅れた4時50分に出発する。



しばらく登山道を歩くが、この登山道は、田んぼのようにぐちょぐちょだった。なので、早めに沢に降りたかった。大石沢の手前で沢におり、遡行を開始する。

いきなり釜のある2mほどの滝だったが、ここは、右側から突破する。早朝のこの時間は、まだ寒くて、泳ぐ気にはならなかった。



ナメが続くすばらしい沢

しばらくナメを歩くと、大石沢の出合に到着する。この付近には、数パーティーがテントを張っていた。この出合までは宝川だったが、ここからは名前をナルミズ沢に変える。出合の大きな釜を持つ3mほどの滝を左側から超え、気持ちの良いナメをひたひたと登っていく。2段5mの滝は左側をへつり気味に行ってそのまま登る。

途中の深い淵は、左岸に巻き道があり、それを利用した。

小さな滝をいくつか超えていくと、8m魚留め滝に到着する。右壁の一番右、小さなランゼ状になったところを登っていく。ここでは、ザイルを出して、SさんとKさんに登ってもらったが、他の人はノーザイルで登ってきた。

さらにナメを気持ちよく歩いていくと、二俣に到着する。この付近には、ハクサンコザクラやタテヤマリンドウが咲いていた。キンコウカやニッコウキスゲも咲いている。

ここから右俣に入り、いくつかの滝を次々に超えていく。この頃になって、Kさんが、お風呂のような小さな水たまりに入ってはしゃぐようになる。最後は、みんなで入って、Fさんから写真を撮っていただくことに。

水流が細くなってきた頃、水筒を満たし、さらに登る。そして、天国へのツメといわれる源流部に。ニッコウキスゲが風に揺れる中を登っていくと、すばらしい草原に出た。タテヤマリンドウなどを楽しみながら登っていくと、稜線に到着。風が強いので、その上のピークまで行

くことにした。さすがにかなりの急登だが、がんばって登る。登り着いたところは地蔵の頭手前のピーク。ここで、昼食とする。大源太山や七ツ小屋山がよく見え、大烏帽子山の奥には巻機山が見える。その左手に見えていたのは、越後三山方面ではないだろうか？ さらに、平ガ岳や尾瀬の燧ヶ岳、至仏山、上州武尊山も見えていた。今日は、天気が良く、展望もすばらしい。



天国への詰めと言われるすばらしい草原

昼食を食べ、沢靴を登山靴に履き替える。ここは踏み後がしっかりしているが、登山道ではないので、整備されていない。クマザサ帯をトラバースするときは、滑りやすいので注意が必要だ。

地蔵の頭からは、ナルミズ沢の二俣がよく見えた。ここから痩せ尾根を通過し、朝日岳への登りにかかる。クマザサ帯をぐいぐい登っていくと、清水峠から朝日岳に繋がる登山道に飛び出した。遠くに苗場山が見え、谷川岳から一ノ倉岳、茂倉岳、武能岳と続く、谷川連峰もよく見える。一の倉沢や幽の沢の岩壁もよく見えた。

広河原に下る分岐にザックを置き、朝日岳に向かう。この道はすばらしいお花畑だ。キンコウカの群落、ワタスゲの群落、シモツケソウ、ヒメシャジン、イワショウブ、ホソバヒナウスユキソウなどがたくさん咲いている。山頂付近の池塘もすばらしい。

朝日岳の山頂で記念写真を撮って、分岐まで引き返す。分岐の下にある水場で休憩する。木道に寝そべて腰を伸ばす人もいる。



朝日岳山頂にて

ここからの下りは、一般道であるが、岩場のトラバースもあり気が抜けない。そして、ジグザグなどが全く切られていない真っ直ぐ伸びた道を下っていく。足が痛くなってくるが、高度はぐんぐん下がる。傾斜が落ちると、大石沢に到着する。

広河原に戻って、テントを撤収し、重くなったザックを背負って下山にかかる。渡渉点の通過は、帰りの方が着地点が低く、幅広になるため、来たときよりは楽だった。

悪い岩場も、どちらかというとなり帰りは登りに

富士山(8月29日～30日)

参加者 会員(障害者8名、健常者12名)
会員外(健常者1名)

8月29日

山仲間アルプ設立以来、初めて「共に楽しむ登山」で夏の富士山を計画した。平地では連日猛暑が続き、千葉では水不足で野菜たちが悲鳴を上げている。しかし、登山にとってはとてもありがたい天気だ。五合目で高速バスを降りると、弱いエアコンを利かせたバス内よりも涼しかった。

渋滞に掴まり、さらに五合目手前でなかなか

なるので、楽だった。しかし、長い長い下りだ。朝から10時間以上行動しているため、身体はヘトヘト。しかし、みんな弱音を吐かず、最後の林道もがんばって歩いた。

行動時間12時間半の強行軍を終えて、車に帰り着き、ホッとした。最後は、汗くさい身体を清めるため、湯テルメ谷川で温泉に浸かった。最高の沢を遡行し、多くの花に巡り会い、そして体力を使いきった山行で、一層力が付いたのではないのでしょうか？

コースタイム

8/7 宝川温泉ゲート(11:25) ... 林道終点(13:10-13:20)... 渡渉点(14:45-14:55)... 広河原(15:10)

8/8 広河原(4:50)... 大石沢出合(5:50-6:05)... 二俣(7:50) ... 地藏の頭手前の小ピーク(9:40-10:15)... 朝日岳(11:40-12:05)... 広河原(14:10-14:40)... 林道終点(16:00-16:10) ... 宝川温泉ゲート(17:20)

進まなかったため、五合目を50分遅れで出発することになった。五合目からは南アルプスの北岳や甲斐駒ヶ岳が見えていた。八ヶ岳も見えている。しかし、五合目はすごい人ばかりだ。渋谷の八丁公前の感じだろうか？

六合目に続く林道を歩いていると、疲れた顔の人たちが下りてくる。「私たちが帰りはあんなるんだろうな」という声が聞こえてくる。麓には山中湖がよく見えている。後には河口湖も見えていた。

六合目で昼食タイムとする。ここまでのペースは演歌ペースではなく、ちょっと早めだ。速く歩くと高山病やばてることが心配。しかし、50分遅れのスタートを考えると、ゆっくりもしてられない。いつものことではあるけれど、体力を要する山だけに、やはりいろいろと考えなければならない。



MさんとサポートするK君、先頭はYさん

七合目から上の小屋がたくさん見えてくる。登るにつれて、一番下の「花小屋」の文字が見えるようになってくる。落石防止の大きな衝立は、富士山の絆創膏のようで痛々しい。景観を大きくこわすものだけど、安全のためには、仕方ないのだろう。

七合目の花小屋に到着する。五合目で金剛杖を買ったKRさんとKD君のKKコンビは、小屋に着くたびに焼き印を押してもらった。1回200～300円。いったいいくつかの小屋があるのだろうか？



七合目付近の溶岩の岩場を登る

七合目トモ工館、鎌岩館、富士一館と過ぎる頃から溶岩の岩場となってくる。傾斜も次第に増してきた。急な階段を登ると、鳥居のある鳥居荘だ。さらに七合目最後の東洋館を過ぎると、ますます傾斜が急になる。先頭と最後尾も離れはじめてきた。

ようやく行く手に3年前に島根県のHさんと登ったときに泊まった太子館が見えてきた。今日泊まる白雲荘は、あと二つ目の小屋だ。すぐ上の蓬莱館を過ぎると、白雲荘まではまだか

なりあるように見える。「もう少しで着くよ」と励ましたいのだが、「すぐといってもいつもウソだ」という声が聞こえてくるため、躊躇してしまう。長い登りが当たり前の山では、「すぐ」というのは30分や1時間が当たり前だと思うけど、感覚は人それぞれですね。



泊まった八合目白雲荘の前で

それでも、先頭に行くKE君はすでに白雲荘に着いたようだ。白雲荘は、半月板が目印だ。全員揃うまで外で待ち、揃ってから中に案内された。そしてすぐに夕食。夕食はカレーライスだった。お代わりしたいけど、それは言い出せなかった。テーブルに準備してあった明日の朝の弁当をいただき、寝る場所に戻る。寝るスペースは、1畳に2人くらいだ。少し、外でビールなどを飲んでから寝ることにする。深夜11時頃までは登る人や小屋に泊まる人で人通りが絶えず、うるさくて眠れなかった。さすがに夜半を過ぎる頃にはうるさい音を感じなくなったが、多少うとうとしたのだら。

8月30日

しかし、今度は1時半に出発する人たちの声がうるさくて眠れず。隣では仲間の声も始まり、結局、ほとんど眠れないまま、起床時間の2時半となる。

眠さをこらえて起きると、Tさんから今回初参加のNさんが高山病の症状で体調が悪いという連絡がある。様子を見に行くと、かなり悪そう。私たちが帰ってくるまで小屋で待っていてもらおうと小屋の人に相談すると、他のツ

アーでも体調が悪い人がいて、5時40分に全員一緒に下山するとのこと。しかし、1人では心細いだろうということで、Aさんが一緒に下ってくださるとのこと。本当にありがたいAさんのやさしさに、ただただ感謝です。

本隊は、ヘッドランプを付けて、3時過ぎに白雲荘を出発する。夜空には、オリオン座や牡牛座、スバル、そしてカシオペア、ハクチョウ座、天の川などが見られる。今日も良い天気だ。

元祖室を過ぎ、本八合の富士山ホテルを通過する。登るにつれて、次第に東の空が茜色になってくる。麓の山中湖がよく見える。さらにトモ工館を過ぎ、御来光館を通過する。御来光には、まだ時間がある。



九合目付近から見た御来光

九合目の手前で、御来光まで15分くらいになったので、休憩がてら御来光を待つことにする。待ち時間が長いと寒くなってくるので、少し迷ったが、迷っているうちに雲の間から真っ赤な太陽が顔を見せ始めた。バーコードのような太陽だねと言う声も聞こえたが、真っ赤な御来光はやはりすばらしい。御来光を見たあとは、山頂を目指してひたすら登るのみだ。南側を見ると、大島も見えてきた。山頂から吉田大沢側は、溶岩の色の影響か、真っ赤に染まっている。

九合目の鳥居を過ぎると、渋滞が始まった。ゆっくりペースは返って良いかも知れないと思い、ゆっくりと登ることにする。しかし、元気いっぱいK E君には、先に登って山頂の入口で待っていていいよという話をして、先に登ってもらった。K E君は、昨日も他の人のザッ

クを背負って登ってくれた頼もしい中学生だ。

最後を締めてくれたTさんがIさんと一緒に到着して、全員、山頂に勢揃いとなった。みなさん、がんばりました。



富士山の吉田口山頂にて

ここで、剣ヶ峰まで行く人とここで休んでいる人で分かれることにする。その前にお釜と剣ヶ峰を背に記念写真を撮る。みんな、達成感で心が満たされているようだ。

剣ヶ峰(お鉢めぐり)組は、そのまま出発する。白山岳をトラバースし、再びお釜の上に上がると、南アルプスの大展望が広がる。先月登った赤石岳、荒川三山を始め、日本最南端の3,000m峰、聖岳や塩見岳、白峰三山、仙丈岳、甲斐駒岳、塩見岳と農鳥岳の向こうには、中央アルプスの宝剣岳とその向こうに御岳も見えた。さらに北の方には、槍穂高連峰から伸びる北アルプスがよく見えている。八ヶ岳もよく見える。



一番高い剣ヶ峰にて

大展望を楽しみ、剣ヶ峰に向かう。剣ヶ峰に到着したが、展望台に上がる行列ができていてかなり時間がかかりそうだ。帰りのバス時間に

あまり余裕がないので、展望台はあきらめて、伊豆半島や御前崎方面の海が見えるところで休憩する。

富士宮口と御殿場口の登下山道に着く頃、下山の時間が心配になり、久須志神社付近で待っている人たちに先に下ってもらおうと思い、Yさんに先に行って伝言してもらおうようお願いする。

先に行ったYさんに遅れて、私たちも須走の下山口に到着した。そしたら、なんとMさんがいるではないか。これには、本当に驚くと共に、心強さを感じた。何でも、昨夜家を出て、深夜からそのまま登ってきたそう。白雲荘の前で2時半まで待ったが、私たちが出てこないのです。すでに山頂に行ったと思い、登ってきたそう。Mさんが白雲荘の出発時間を勘違いしたことには原因があるが、とにかく出会えたことがありがたかった。

ここからは、Mさんの力も借りて下山にかかる。

若い男衆は、ぐんぐん下る。とにかく、足を踏ん張ればそれだけ疲れるので、足が滑ったら滑るなりに、足をひたすら前に出す。

しかし、下に下りるほど後のメンバーとの差が開いてくる。先に下りたメンバーとも合流し

た。バスの時間に間に合わないと大変なので、時間が心配になる。小5のKD君を背負ってみるが、やはりプライドがあるので、自分の足で歩きたいようだ。とにかく、「大丈夫か?」というような声かけはせず、「よし行くぞ~」「がんばれよ~」という声かけをする。KD君のペースも前よりは上がって、順調に下るようになってきた。

六合目の上で全員揃い、あとは、思い思いに、林道を歩いて五合目を目指す。もう、靴は土埃で真っ赤になっている。鼻の穴も真っ黒だったのでないだろうか?

五合目のトイレで顔を洗い、2階のレストランで食事と麦のジュースで労をねぎらう。日本一高い山に登って、みんな充実感でいっぱいでした。お疲れさまでした。

コースタイム

8/29 五合目(11:30)...六合目(12:05-12:35)...七合目(13:40-13:50) ... 八合目 白雲荘(16:30)

8/30 白雲荘(3:05)...富士山頂(久須志神社)(6:00-6:40)...剣ヶ峰(7:50頃)...久須志神社(8:30-8:35)...五合目(12:20)

ハイキング報告

第23回ふれあいハイキング(市原市民の森)(6月27日)

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

会員外(健常者6名)

梅雨の真っ最中のため、天気予報は難しく、行ってみなければ天気は分からないのがこの季節だ。朝晩は雨だが、日中は日も差す予報だ

ったため、予定どおり決行する。

小湊鉄道の列車の窓には、ポツポツと雨が当たっている。しかし、この程度であれば、問題ない。車窓からは、アジサイの花が楽しめた。

月崎駅に降りて、全員合流し、市原市民の森に移動する。今月初めに行ったことのある小4のYちゃんが先導してくれる。お母さん以上に道をしっかりと覚えているようだった。

市民の森までの道は、あまり歩かれていないようで、かなり草ぼうぼうの道だ。しかし、そ

のおかげで、シロツメクサやネジバナなど多くの花を踏みながら歩かなければいけない道だ。ベニシジミや瑠璃色のシジミチョウも、草花に止まって楽しませてくれる。



市民の森の入口には、管理事務所があり、野菜などを低価格で販売している。購入するのは帰りになるが、まずは案内図をいただいて、市民の森に入っていく。菖蒲園の脇を通り、アジサイ園へ。そして、まむし注意の池に行く。池の奥にはスイレンの花が咲いていた。と、その時、Nさんが「カワセミだ」と叫ぶ。池の上を飛んだ後、藪の中に入ったらしい。少し待ったが出てこないの、あきらめて先を急ぐ。この付近から雨が降り始めたので、カッパを着る。

少しずつ山道になり、沢沿いの道に行く。すると、カメラを構えた人たちがいました。まずは、オオルリの声がしたものの、姿は見え。さらに行くと、サンコウチョウの巣があった。しかし、しばらく待っても姿を現せてはくれず、あきらめて先に進む。

さくらコースへの分岐を左に見送り、林道への登りにかかる。木の階段が続いているが、なかなかの急登だ。おなかが空いて力のでない人もいたので、林道手前の東屋で昼食タイムとする。東屋の中の地面は乾燥しているため、人が歩かないところにはアリジゴクがたくさんいる。大きいアリを掴まえてすり鉢の中に入れた

ら、アリジゴクがしっかりとアリを掴まえた。

ここから少し登って降りると、林道に出る。この林道は左に行くと大福山へと続いているようだ。我々は、反対側に行く。Nちゃんは、「タラッタラタタ～フーン」というおもしろい振り付けをみなさんに伝授している。



林道から管理棟へ戻る道は、くぬぎコースとする。ここは比較的傾斜が緩かった。木の橋を渡って、下っていくと、キャンプ場の脇に出る。見事なアジサイを写真に収め、管理棟に到着する。管理棟で、多くの方が野菜を買い、みんなで写真を撮って、ここで一次解散とする。クルマできたKさんご夫妻と別れ、月崎駅に向かう。列車の時間まで1時間以上あるため、フリー切符の人たちは、反対側に行く列車に乗って、車窓を楽しんで、そのまま戻ってきた。

今日のハイキングは、千葉県民の日賛同行事であると共に、千葉県体のPRも兼ねているため、イベント用にいただいたちーば君のうちわを持って、列車の中でもう一度集合写真を撮る。

少し雨に降られましたが、童心に返ってみんなでポーズを取るなど、楽しい一日だったのではないのでしょうか？

コースタイム

月崎駅(10:30) ... もみじ谷コース上の東屋(12:10-12:40)...月崎駅(14:05)

第5回ふれあいキャンプ(氷川キャンプ場)(8月21日～22日)

参加者 会員(障害者2名、健常者9名)

会員外(健常者1名)

8月21日

今年は、広報をしっかりとしていなかったこともあり、子どもの参加が1人だけとさみしくなりました。

奥多摩駅に着いて、全員合流し、氷川キャンプ場まで移動する。車で来たHRさんが食材や調理用具、そして薪まで準備してくださっているので、全員で手分けして炊事場まで運ぶ。私たちが利用した炊事場は、とをりを先にボーイスカウトの人たちが陣取っていた。

材料を運び終えてから昼食とする。今回は、大人がほとんどだし、私も電車の中に水着を忘れてきてしまったので、昼食の後は昼寝かなと思っていた。しかし、小2のS君と河原に遊びに行き、S君にズボンのまま入っても良いんだよと言っているうちに、少しずつ私自身も川に入りたくなってきた。そこに、HSさんが来て、着の身着のまま川に入り、泳ぎ始める。そろそろ意を決して泳ごうかなと思っていたとき、後から追いかけてくるKさんがキャンプ場に着いたと電話が入った。



多摩川で泳ぐS君とHさん

着替えを持ってこなかったKさんと水着を忘れた私で、対策を考え、水の中に入ることにする。入ってしまえば、もう大人も子どももない。渡渉の練習をしたというHRさんとTさんが、キャンプ場ではあまり見かけないハーネス

を付けた姿で現れた。みんな一緒になり、向こう岸まで泳いでいって、昨年同様、岩の上から順番に飛び込みだ。S君は、怖がって飛び込みなかったが、HRさんが、親亀になってS君と平泳ぎをしている。急流に乗って少し長い距離を泳いだりして楽しんだ後、川から上がって食事づくりにかかる。

コック長のTさんと総監督のHRさんの指示で火をおこしたり、食事を作ったりと、スムーズに進めていく。メニューは、タンドリーチキン、トマトとバジルの冷製スパゲティ、タラモサラダ、できるかなン？、キーマカレーです。

ほぼ料理ができあがり、あとはナンを焼くだけという頃から乾杯が始まる。そして、Nさんのオカリナ、Kさんのギターも始まり、Tさんが買ってきてくださった歌集3冊のうち、フォークソングの歌集を使ってみんなで歌い出します。S君は鍋を棒で叩いて演奏します。隣のボーイスカウトの人たちは、呆然と立ちつくしていたような？

暗くなってきたところで、河原に出て、キャンプファイヤーを始めます。ここでも、Kさんのギターと歌で盛り上がり、最後はS君のスイカ割りを行いました。当たったけど割れなかったスイカは、大人が大事に炊事場に持って上げて、切って食べました。



キャンプファイヤーの火が燃え上がる

もっと語り合えようというOさんのお誘いに数人が集まって、これから、どういったらキャンプに子どもたちを呼ぶことができるか議論が始まりました。なかなか妙案が見つか

らないまま、早めのお開きに。

8月22日

6時起床でしたが、1時間も前にHRさんは起きだして、朝食の準備を始めてくださいます。6時頃、起きていくと、もう朝食の準備はほとんどできあがっていました。河原では、魚釣りをしている人たちがいました。見ていたら、目の前で1匹釣れました。何かは分からなかったのですが、虹鱒でしょうか？

朝食は、和風オムレツとみそ汁、おにぎりとお粥、それに昨晚の残り物です。朝からおにぎりを3個食べ、腹一杯の満腹メニューでした。

食後は、食器洗いと車への荷物運びです。一通り出発準備ができたところで、河原に出て記

念写真の撮影です。



以上で、キャンプは終わりですが、9時前に解散となったので、これからは3組に分かれて、日原鍾乳洞や奥多摩駅から鳩ノ巣駅の溪谷歩き、それと水根沢の沢登りなど、それぞれに楽しみました。

個人山行報告

水根沢(8月22日)

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

ふれあいキャンプ終了後、個人山行で半日コースの水根沢を計画した。ここは、釜のへつり、泳ぎ、滝の登攀が連続している沢で格好のゲレンデである。5、6組のパーティーが入っていた。未成年会員のKくん、沢は初参加である。Aさんを登攀隊長としてトップを行ってもらい、次にKくん、そしてKRちゃんのサポートを私とTさんと、遡行をおこなった。

ゴルジュばい兩岸が狭まる谷を小滝、釜、を超えながら進む。深い釜を持った3m滝が現れる。兩岸が切り立っているので、釜を泳ぐしかなく、Aさんが飛び込み、段差のある向こう岸の岩棚に這い上がる。Kくんが2番手、お母さんより金槌と聞いていたが、なかなかどうしてすいすいと平泳ぎで向こう岸につき、Aさんのロープ確保で這い上がる。

そうこうしているうちに2m幅に谷が狭ま



り幅1mくらいの高さ3m位の滝が落ちている。ここは、両手・両足を兩岸に突っ張り這い上がる。皆さん、初めてにしては身が軽くうまい突っ張り登攀であった。Tさんなんか力強い突っ張りでした。

10m大滝が現れる。先行者は釜に飛び込み滝左手を登っているが、我々は右側壁7mくらい上を小さな岩角を手掛かり、足がかりとして微妙なバランスでトラバース、Aさんのロープ確保で全員無事通過。Kくん、Tさんは難なく通過。KRちゃんは、薄暗さもあり小さな手が

かり、スタンスが見えない様子、よく粘って頑張っていて通過した。



滝の右壁をトコバースするK君

半円の滝が現れる。5 mほどの高さから半円のスライダー状に急な傾斜で滝が落ちる。この沢のフィナーレである。これは、突っ張りで登攀するが、落ちればしこたま膝や肘を打ち、骨折の可能性もあるので登らず、滝の左側リッジ

を登り越える。この先で遡行を終了とする。

中級の沢であるが、Aさんの登攀リードおよびロープ確保、沢初体験のKくんの物おじしない身軽さ、Tさんのこれまた度胸のある安定した登攀、KRちゃんの岩ごろごろ、滝いっぱい、さらに泳ぎありを乗り越えての頑張り、お見事でした。

暑い夏の日でしたが、涼しく、スリル満点の、かつ楽しい山行を無事終えることができました。 記：H

コースタイム

水根駐車場(10:10)...水根沢キャンプ場上部入渓(10:30)...2段 10m 大滝...半円の滝上部遡行終了(13:50-14:10)...登山道...水根駐車場(14:50)

各種連絡事項

八千代市1%支援制度のPRイベントが実施されました

7月8日(八千代緑が丘) 7月15日(八千代台) 7月22日(勝田台)で1%支援制度の普及を図るためのチラシ配布などのPRイベントが開催されました。

ご協力いただいたMさん、T.Yさん、M.Yさん、Oさん、Kさん、ありがとうございます

した。

8月16日に、市民のみなさまからの選択届け出が終了しました。届け出をしていただいたみなさま、ありがとうございます。結果の公表は9月下旬になります、少しでも良い結果になるよう期待したいと思います。

第12回視覚障害者全国交流登山大会に11人が参加します

乗鞍青少年交流の家で開催される第12回視覚障害者全国交流登山大会に、11人(うち視覚障害者4人)の会員が参加します。

中級コースの乗鞍岳登山に最も参加者が多

いですが、1人が上級コースの丸黒山登山を希望しています。六つ星山の会とサポートなどについても協力しあって、進めたいと思います。

2011年度の事業計画づくりを開始します

毎年1月に行う臨時総会で、議案として提出する来年度の事業計画づくりを開始します。来年度、登ってみたい山や行ってみたいハイキングなどがありましたら、事務局までお知らせく

ださい。ご要望も添えない場合もありますが、選定委員会を開催し、来年度の候補として検討させていただきます。

やちよ市民活動センターまつり「こんにち‘わ’ふれあいまつり」に参加予定

第7回目となる八千代市の「こんにち‘わ’ふれあいまつり」が、11月23日に行われる予定です。今年も、写真などを展示してPRする予定です。今回は、Oさんから実行委員にな

っていただき、参加団体で作る実行委員会で詳細をつめていきます。前日の準備や、当日のお手伝いなど、都合が付きましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

会員情報

新入会員のお知らせ

6月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく申し上げます。(敬称略)

正会員

T.S

編集後記

・理事長のつぶやき

子どもたちに出した「山の自然はなぜ美しいのか？」という問いに、子どもたちからは「人の手が付いていないから」という答えをいただきました。なぜ、人の手が付いていないと美しいのでしょうか？ 例えば、人が育てたコマクサは美しくないのでしょうか？ コマクサを愛し、コマクサを増やしてあげたいと思って丹誠込めて作ったコマクサは美しいと感じるのではないのでしょうか？ 逆に、コマクサを増やして金儲けをしようとたくらんで育てたコマクサは、美しいと感じないかも知れません。何も

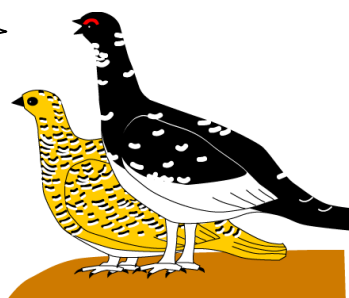
知らずにコマクサを見ると同じものですし、コマクサには何の罪もないはずなのですが…。

そう思うと、人はあるものをそのまま見つめているのではなくて、自分の感情を通してものごとを見ているようですね。

詩人の宮沢賢治は「雨ニモマケズ」の中で「あらゆるものを自分の感情に入れず」と言っています。簡単なことではないのですが、感情に流されず、分けて考えることはしっかりと分けて考えて、その本質を見つめられるようになりたいですね。

・次回発行予定は、9月です。

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！



参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308